

第37回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成8年11月13日（水）
 14:00～15:10
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) 宇宙産業実態調査報告書について
 (3) 「HETE」の打ち上げ結果について
 (4) 科学技術と社会に関する懇談会報告書について
4. 資 料 委37-1-1 第34回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 委37-1-2 第35回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 委37-1-3 第36回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨（案）
 委37-2 宇宙産業実態調査報告書
 委37-3 「HETE」の打ち上げ結果について
 委37-4 科学技術と社会に関する懇談会報告書

委 37-1-1

第34回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時
平成8年10月30日(水)
14:00～15:30
 2. 場所
委員会会議室
 3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認について
 - (2) 地球観測プラットフォーム技術衛星の追跡管制状況について
(速報その5)
 - (3) 地球観測衛星「みどり」の温室効果気体観測センサ(IMG)の初データ取得について
 - (4) 宇宙ステーション取付型実験モジュール(JEM)曝露部初期利用募集案内について
 - (5) 国際共同研究による「HETE」(高エネルギートランジェント天体観測衛星)の打上げについて
 - (6) アジア太平洋宇宙協力ミッションの調査結果について
 4. 資料
 - 委34-1 第33回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)
 - 委34-2 地球観測プラットフォーム技術衛星の追跡管制状況について(速報その5)
 - 委34-3 地球観測衛星「みどり」の温室効果気体観測センサ(IMG)の初データ取得について
 - 委34-4 宇宙ステーション取付型実験モジュール(JEM)曝露部初期利用テーマ及び実験装置候補の募集について
 - 委34-5 国際共同研究による「HETE」(高エネルギートランジェント天体観測衛星)の打上げについて
 - 委34-6 アジア太平洋宇宙協力ミッションの調査結果について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

野 村 民 也

宇宙開発委員会委員

山 口 開 生

〃

末 松 安 晴

〃

長 柄 喜一郎

関係省庁

郵政大臣官房技術総括審議官

甕 昭 男（代理）

通商産業省機械情報産業局次長

河 野 博 文（〃）

事務局

科学技術庁長官官房審議官

大 熊 健 司

科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

千 葉 貢 他

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第33回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委34-1）が確認された。

(2) 地球観測プラットフォーム技術衛星の追跡管制状況について（速報その5）

宇宙開発事業団軌道上技術開発システム本部 佐木総括開発部員より、資料委34-2に基づき、地球観測プラットフォーム技術衛星の追跡管制状況として、各センサ等の機能確認は温室効果気体観測センサ（IMG）を含め全て終了したこと、電力最大負荷モードに設定された総合運用試験1を実施したこと、搭載計算機（OBC）誤動作防止機能改善のために、OBCプログラムの書き換えを行ったこと、不具合が生じていたミッションデータレコーダ（MDR）は、回復作業の後、正常に機能していること、今後の予定等についての説明があった。

これに関し、委員より、総合運用試験1の目的、軌道間通信系（IOCS）の機能等について質問があった。

(3) 地球観測衛星「みどり」の温室効果気体観測センサ（IMG）の初データ取得について

通商産業省機械情報産業局 井上宇宙産業課長より、資料委34-3に基づき、地球観測衛星「みどり」に搭載された温室効果気体観測センサ（IMG）について、機能確認の一環として取得された温室効果気体である二酸化炭素、オゾン、水蒸気、メタン等の観測データの解析結果及び今後の予定の説明があった。

これに関し、委員より、データ取得に使用されている波長、今回取得された気温データと気象ゾンデによる気温データとの比較結果等について質問があった。

(4) 宇宙ステーション取付型実験モジュール（JEM）曝露部初期利用募集案内について

科学技術庁研究開発局 倉持宇宙利用課長より、資料委34-4に基づき、宇宙開発事業団が実施予定の宇宙ステーション取付型実験モジュール（JEM）の曝露部の初期における利用に関し、「利用テーマ・実験装置候補」の提案について、募集の進め方、募集内容及び募集・選定プロセスの概要等の説明があった。

これに関し、委員より、募集の方法及び時期、JEMでの実験期間、テーマ・実験装置の選定の体制等について質問があった。

(5) 国際共同研究による「HETE」（高エネルギー・トランジェント天体観測衛星）の打上げについて

理化学研究所 坂内理事より、資料委34-5に基づき、宇宙空間におけるガンマ線バーストによる高エネルギー・トランジェント現象の観測を目的として日米の共同研究により開発され、10月31日（日本時間）に米国NASAにより、ペガサスロケットで打ち上げられる予定の天体観測衛星「HETE」について、HETE及びHETE計画の概要、理化学研究所及び関係各国の役割分担、打上げ後のスケジュール等の説明があった。

これに関し、委員より、当初の打上げ予定を変更した理由、搭載コンピュ

ータの性能、同時打上げの科学衛星等について質問があった。

(6) アジア太平洋宇宙協力ミッションの調査結果について

科学技術庁研究開発局調査国際室 海野係長より、資料委34-6に基づき、10月13日～10月22日に、アジア太平洋地域（インド、韓国、中国、モンゴル）における小型衛星及びリモートセンシングの分野での協力について意見交換を行うために実施されたアジア太平洋宇宙協力ミッション派遣の結果について報告があった。

これに関し、委員より、モンゴルでのリモートセンシングの活用方法、小型衛星の遠隔医療分野への活用方法、また、調査対象に入っていない台湾での小型衛星開発や宇宙科学の状況等について質問があった。

以上

委 37-1-2

第35回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨(案)

1. 日時
平成8年11月6日(水)
14:00～15:10
 2. 場所
委員会会議室
 3. 議題
(1) 前回議事要旨の確認について
(2) H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星(ADEOS)の打上げ結果の評価について
(3) 月探査に関する調査研究(その2)報告書(概要)
(4) TRLA7号機微小重力実験システムを用いた微小重力実験計画の募集について
 4. 資料
委35-1 第34回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)
委35-2 H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星(ADEOS)の打上げ結果の評価について(案)
委35-3 月探査に関する調査研究(その2)報告書(概要)
委35-4 TRLA7号機微小重力実験システムを用いた微小重力実験計画の募集について(案)
 5. 出席者
宇宙開発委員会委員長代理 野 村 民 也
宇宙開発委員会委員 山 口 開 生
〃 長 柄 喜一郎

関係省庁

郵政大臣官房技術総括審議官

麿 昭 男（代理）

通商産業省機械情報産業局次長

河 野 博 文（ 〃 ）

事務局

科学技術庁研究開発局長

加 藤 康 宏

科学技術庁長官官房審議官

大 熊 健 司

科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

千 葉 貢 他

6. 議事

(1) 前回の議事要旨の確認について

第34回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委35-1）が修正された。

(2) H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の打上げ結果の評価について

事務局より、資料委35-2に基づき、H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の打上げ結果を評価するために、技術評価部会において調査審議を行うこと、技術評価部会専門委員のうち宇宙開発事業団 三浦理事については、今回の調査審議については説明者として参加する旨、説明が行われた後、原案通り決定された。

(3) 月探査に関する調査研究（その2）報告書（概要）について

文部省宇宙科学研究所 松尾企画調整主幹より、資料委35-3に基づき、月探査に関する検討委員会およびそのワーキンググループの構成員、調査研究の目的、月探査に関する国内外の動向、並びにH-IIAロケットを用いた6～7機のミッションを前提とした月探査活動の展開に関するシナリオについて説明があった。具体的には、2003年頃に打上げを予定している月探査周回衛星を1号機として、2005年には2号機ペネトレータミッション／小型望遠鏡、2007年には3号機月面ローバ、2009年には4号機宇宙背景放射観測装置、

2011年には5号機月面ローバ（親子方式）、2013年～2015年には6号機中型赤外線望遠鏡／地球衝突小惑星監視装置、7号機サンプルリターン、以上7つのミッションで技術・データを確立する月探査活動の展開に関するシナリオについて説明が行われた。

また、併せて京都で開催されたILEWGについて説明が行われた。

これに関し、委員より、月探査の研究推進体制、2年に1回打上げるとした場合の概算コスト、ステーションを中継基地にして有人活動を行う可能性について質問があった。

(4) TRIA 7号機微小重力実験システムを用いた微小重力実験計画の募集について

宇宙開発事業団宇宙環境利用研究センター 清水主任開発部員より、資料委35-4に基づき、TRIA 7号機微小重力実験システムを用いた微小重力実験計画を募集すること、応募された実験計画は、「宇宙環境利用研究委員会」（宇宙開発事業団理事長の諮問機関）で評価・選定を行うこと、募集対象となる6種類の実験装置、募集・選定プロセスの概要等について説明が行われた。

これに関し、委員より、公募の競争率（予想）、公募を1回とする理由、従来は微小重力実験計画をどこで決めていたかについて質問がなされた。

以上

委 37-1-3

第36回宇宙開発委員会（臨時会議）

議事要旨(案)

1. 日時 平成8年11月11日（月）
 11:30～11:45

2. 場所 委員会会議室

3. 議題 (1) 宇宙開発委員会委員長代理の指名
 (2) その他

4. 出席者

宇宙開発委員会委員長	近 岡 理一郎
宇宙開発委員会委員長代理	野 村 民 也
宇宙開発委員会委員	山 口 開 生
〃	長 柄 喜一郎

関係省庁

郵政大臣官房技術総括審議官	甕 昭 男（代理）
通商産業省機械情報産業局次長	河 野 博 文（〃）

事務局

科学技術庁研究開発局長	加 藤 康 宏
科学技術庁長官官房審議官	大 熊 健 司
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	千 葉 貢 他

5. 議事

(1) 宇宙開発委員会委員長代理の指名

宇宙開発委員会設置法第6条第3項に基づき、近岡委員長より、野村委員が委員長代理に指名され、また、野村委員が不在の際には、長柄委員が委員長代理を行うよう指名された。

(2) その他

委員長及び各委員の間で、我が国の宇宙開発の推進等について意見交換が行われ、委員長より、宇宙開発は国民に夢を与え、また、豊かな生活をもたらすとともに、国際協力を通じて国際社会の安定と発展に貢献するものであり、今後とも国として推進していくことが肝要である旨の発言があった。

以上